

# Fans

生涯学習情報誌

- フォンズ -

91

No. 2021年9月24日発行  
常陸太田市フォンズ・ネットワーク事務局  
常陸太田市生涯学習センター内  
〒313-0061 茨城県常陸太田市中城町3280番地  
TEL:0294(72)8888 / FAX:0294(72)8880  
Webサイト: <https://hitachiota-fons.jp/>

## 男体山の夕暮れ

武藤 卓

男体山といえば、日光男体山や筑波山の男体山を思い浮かべますが、奥久慈にも男体山があります。別名「鼻欠山」「頂山」「南台山」とも呼ばれているそうです。山頂はちょうど常陸太田市と大子町の境にあります。今回初めて男体山に登ってきました。

平成二十年に「にほんの里山百選」に選ばれた持方集落から頂上に通じる登山道があり、一時間程で頂上に着くことができます。里山百選の碑がある駐車場に車を止めて歩き始め、途中、徳川斉昭公由来の腰掛石、男体山遙拝所を過ぎると、斜面右に何軒かの民家があつて大円地越との分岐があります。大円地へ進む場合には見逃してしまいそうなところですが、帰りはここを降りてきました。その分岐をまっすぐ進むと、しばらくして山頂への標識があります。小さな沢を渡ってここから登りになります。登山道を登って行くと尾根に合流し、一気に明るくなり視界も広がります。景色や紅葉を楽しみながら最後に急な斜面を登り詰めれば山頂に到着します。山頂には男体神社の奥社があり、疲れが吹き飛ばほどの絶景が見られます。山頂で食べる昼食は格別です。雄大な展望を存分に楽しんだら、先程の尾根道合流地点まで戻り、大円地越へと下りました。

夕方の山頂の様子はどんなだろうと思い、別の日の夕方再び男体山へ行ってみることにしました。昼間賑わっていた山頂付近には誰もいませんでした。夕日で山肌が赤く染め上げられ、見事な夕暮れとなりました。同じ山でも季節や時間によって、こんなにも表情が異なるのだなと、あらためて感じました。

# 持方集落〜男体山

## 持方集落

県立自然公園の中にあり西に男体山・北に白木山がそびえ、竜神川源流の地として美しい里山とそこに伝わる歴史が評価され「にほんの里100選」に選ばれています。

## 男体山

山頂には、大岩石をご神体とした男体権限の祠があります。県北男体山系の最高峰。晴れた日には、山頂から富士山・筑波山・阿武隈山地の山なみ、久慈川の谷、奥久慈の山々を展望できます。一月、雪の富士山は絶景です。

## 秋の花々・野草を楽しむ

キツリフネ ツリフネソウ ヤマハッカ ヤマゼリ  
シラネセンキュウ リンドウ ユウガギク アキノキリンソウ  
ノハラアザミ オオミソバ ミズヒキ アンボン



登山口広場駐車場  
にほんの里100選の碑



## 不思議な虫こぶ!? なが〜い名前

虫こぶとは?

昆虫などが植物につくらせた、特別な形のこぶです。こぶの中で幼虫が成長します。虫こぶをつくる昆虫の多くは、アブラムシ、タマバチ、タマバエの仲間です。

イノコヅチ ↓ 虫こぶ → イノコヅチクキマルズイフシ

昆虫 → イノコヅチウロコバエ

昆虫 → キツリフネ ↓ 虫こぶ → キツリフネクキタマフシ

昆虫 → キツリフネタマバエ



⑤ ウバユリ

初夏に開花

## 寒い冬の備えと来年の準備!!

ナギナタコウジュ エイザンスミレ アズマヤマアザミ  
サラシナシヨウマ カシワバハグマ ウスバサイシン  
ミミガタテンナンショウ

春の姿とは別物?!

②④ エイザンスミレ



春の姿

②⑤ ミミガタテンナンショウ

実の色が  
緑から赤に変化



早春に開花

春先の姿



春先の姿



早春に開花

持方集落

常陸太田市

虫こぶができたイノコヅチ

① イノコヅチ  
クキマルズイフシ



虫こぶなしの  
イノコヅチ





# 登山口〜尾根道合流〜男体山山頂

落葉広葉樹林を行く  
赤や黄色の色さまざまに

オトコヨウソメ オオモミジ ウリハダカエデ  
カマツカ ヤマボウシ ナツツバキ(シカラ)  
ヌルデ アブラツツジ コハチワカエデ  
ハクウンボク ツリバナ アズキノシ ホノノキ



# 岩の間に木々が茂る山道

集塊岩が露出し大きな岩がゴロゴロ。  
その間に木々が茂る楽しい山道です。

集塊岩  
火山噴出物が固まってできた岩石

オオハヤシヤブシ ベニバナツクバネウツギ ネジキ  
オオバマンサク イヌフナ ドウゴクミツバツツジ  
コナラ ダンコウバイ コシアブラ バイカツツジ  
ミスナラ ヒトツバカエデ アブラツツジ  
シラキ ウラジロノキ ヤマグルマ



ヤマグルマ属ヤマグルマ科  
県内では唯一ここで見られる。



四方の山々を見渡すことができるパノラマ素晴らしい。



# ちよつとより道

大田地越  
おたえんじえ  
峠の平坦地  
分岐  
ベンチあり



野生の荒々しきバツグンで盆栽のような風格。



大子町袋田を発見地とするイネ科の多年草。



花はピンク。小型でシオガマキク(塩竜菊)に似る事から。塩竜は塩を作る竜。歌舞伎の台詞「浜で美しいのは塩竜」を「葉まで美しい」に掛け合わせた言葉と言われている。



タイムのような香り。

# 名前の由来…聞いて納得!

オオミソソバ：ソバの花に似ている。別名ワシノヒタイ。  
ウバユリ：花の時期に葉(歯)が枯れてないことから。歯のない姥。  
アシボソ：脚部の茎が上部より細い。  
ミヤマシキミ：山中に生え、枝葉の様子が櫛(しきみ)に似ている。シキミの名前は、果実に猛毒があることから「悪しき実」。  
ツクバネ：羽子板遊びの突羽根(つくばね)に似ている。  
カマツカ：丈夫で折れにくいので鎌の柄に利用。別名をウシコロシ(牛殺し)ともいう。牛の鼻輪にも利用したことから。  
オヤマボクチ：乾燥した葉を火口(ほぐち)に利用した。  
カシワバグマ：葉は柏の葉に似て、花はハグマ(チベットのヤクのしっぽ)に似ている。



# バーチャル曝涼

常陸太田ビデオ研究会会長

黒羽 文男さん

「取材」 萩谷 浩司



昨年からの新型コロナウイルスの影響で多くのイベント、行事の開催が中止になってしまいました。毎年秋に開催されていた集中曝涼もその一つです。普段見ることができない市指定文化財が見学できる機会がなくなり、残念に思われた方も多かったことでしょう。そこで考えられたのがYouTubeで茨城大学生の解説を聞きながら、市内の史跡を巡ることができるようバーチャル曝涼です。この動画の撮影と編集を行ったビデオ研究会の黒羽さんにお話を伺いました。



集中曝涼を訪れるのは初めてでしたが、映像で文化財を紹介するという試みが面白そうと撮影を引き受けた黒羽さん。ビデオ研究会からは二人が参加し、出演する大学生への演出や撮影場所の決定などを現場で調整したそうです。

撮影後の編集作業は全ての映像を見返して、映像のストーリー性を確かめながら、映像を繋ぐ作業が大変だったと言います。こんな映像カットも使いたいともう一度撮影場所に訪れたこともあったそうです。黒羽さんが映像を撮り始めたのは二十年ほど前。市販のビデオカメラで何気なく映像を撮ったりしているうちに、仲間もできて作品も入賞するようになり映像の魅力に惹かれていきました。普段のテレビ番組をついつい撮影や編集者の視点で番組を観てしまうこともあると笑っていました。

「常陸太田は歴史があり、多くの史跡がある街。今回の撮影は文化財を手軽に観てもらえる良い機会になったのでは。」と黒羽さん。今年も残念ながら集中曝涼は中止になってしまいましたが、また違う角度から太田の歴史を楽しんでみてはいかがでしょうか？

毎年10月に開催される「指定文化財集中曝涼」で、学生ボランティアとして現地で解説している茨城大学の学生さん達が動画でも文化財を解説してくれています。新型コロナウイルスの影響により、思うように外出できない日々が続いていますが、常陸太田市の文化財・史跡を訪れた気持ちでぜひご覧ください！（※写真は映像より抜粋。紹介者は実際の映像をご覧ください。）



菊蓮寺 ①



紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
渡辺 大暉さん



菊蓮寺 ②



紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
加茂 佐代子さん・西坂 卓真さん



青蓮寺



紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
富嶋 ひよりさん・喜多 春記さん・尾崎 紗耶香さん



下利員町西光寺



紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
鶴見 莉子さん・阿部 めぐみさん

菊蓮寺収蔵庫には高さ3m50cm、見上げるほどの木造千手観音像があります（県指定文化財）。また、江戸時代に描かれた十王図地獄絵も見事で、死後の初七日から七十七日までの七人の王と百箇日、一周忌、三周忌の三人の王が地獄の様子と天国の様子と共に描かれています。

16年前に青蓮寺の倉庫から江戸時代の古文書が発見され、それまで伝承とされていた二孝女物語が史実として世に広まる事になりました。本堂内部にはこの古文書も展示されており、さらに、檀家の人々が作った紙芝居や展示物で物語を詳しく知ることができます。

常陸太田市には西光寺というお寺が2か所あり、こちらは下利員町にあるお寺です。大正12年の火災で本堂や薬師堂は消失してしまいましたが、火災発生時地域の方が薬師如来坐像を本堂から運び出し守りました。この薬師如来坐像は平安時代後期の作とされ、国指定重要文化財です。仁王門の阿形像と吽形像も迫力があり見どころの一つです。



### 来迎院

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
神谷 柚羽さん・小栗 聡史さん



### 久昌寺

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
植月 清香さん・橋詰 いち歩さん・友常 優歩さん



### 香仙寺

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
齋藤 夏希さん・山口 公佳さん・大島 健汰さん

来迎院の楼門は茅葺屋根で少し傾いています。160年前に書かれた書物にも描かれているこの楼門の傾きは謎になっており、また、ちょっと小太りのユーモラスな仁王像も安置してあります。本堂に安置されている本尊の阿弥陀如来坐像は一本の木から削りだされた一本造りで当時は金箔が張られていました。

久昌寺は300年前に徳川光圀が創建したお寺ですが、明治時代、廃仏毀釈により失われ現在の場所に再建されています。木彫義公面は光圀公の20歳30歳50歳の時の写しと言われる三面が現存しています。また、光圀公が西山荘で過ごした生活ぶりを記録した日乗上人日記があります。

香仙寺東側山腹には、砂岩を掘りぬいた洞窟が3つあり、聖岡(しょうけい)上人がこの洞窟で、浄土宗義関連著書「決疑鈔直牒」十巻を書き上げたことから直牒(じきてつ)洞の名がついたと言われています。また、洞窟の奥の壁には県指定文化財である阿弥陀如来坐像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像が彫られています。暗いので懐中電灯が必要です。



### 旧町屋変電所

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
上野 瑞季さん・徳安 柚花さん



### 旧太田中学校講堂

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
海野 貴之さん・埜 慶子さん



### 中染阿弥陀堂

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
岩崎 凌さん

旧町屋変電所は、120年前に建てられたレンガ造りの建物で、阿武隈山系の山を越えた日立鉾山へ電気を供給するために建設されました。田んぼの小道を南に下ったところには、発電所の遺構があります。地元の保存会の人たちによる看板などが設置され当時の発電所や変電所の建物の様子を見ることができます。

太田一高には、約110年前に建てられた講堂があります。明治時代の建築物にしては珍しいギリシャの古典的なエンタシス柱やコリント風の柱頭装飾ドイツ風の下見板張りがあります。展示物は明治から現代までの写真や資料で、貴重なものばかりです。

中染阿弥陀堂の阿弥陀如来立像は高さ164cm重さ600kgある鉄でできた仏像です。天狗党の騒乱で建物は焼損しましたが本尊だけは残りました。さらに第二次世界大戦では金属の供出が命じられましたが地元の方が土に埋めて守り抜いたそうです。仏像の裏には制作に携わった人や年号が刻まれています。



### 星神社古墳

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
稲葉 祐真さん・小林 加乃さん・湯沢 歩和里さん



### 梵天山古墳

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
小松 愛桂さん・菅原 こすずさん・二之湯 健太さん



### 中野富士山古墳

紹介者 茨城大学 人文社会科学部  
小谷 幸希さん・鬼沢 美結子さん

星神社古墳は、小島町にあります。久慈川流域では最古で、古墳時代の4世紀前半の古墳と言われています。木々に覆われており外から古墳の形は確認できませんが、水田に囲まれた低地に築かれ、墳丘が一つの島のようにっており、水面に浮かぶ一艘の小舟のような美しいたたずまいとなっています。

梵天山古墳は宝金剛院の裏手の山にあります。墳丘の高さは県内二位の150mあります。久慈川と山田川に挟まれた小高い台地に築かれた久慈古墳群の一つで久慈川流域を政治的にまとめた集団がいたと思われます。現在も調査が進められています。

中野富士山古墳は、常陸太田市中野字富士山にあり、古墳の名称も地名から付けられたようです。10年前に地元有志と市文化財課が発掘調査し埴輪などが出土しました。見学者用の駐車場・登山道・看板が整備され休憩用の東屋も建っています。埋葬された人物などは判明されていませんが、古墳に上ってみると前方後円墳の形が良く分かります。

常陸太田に縁のある若手芸術家の  
今をご紹介します。

最終回

サクソフォン奏者

## 埜美里さん

「取材」安嶋隆・塩原慶子

埜美里さんが初めて音楽と出会ったのは三歳でピアノを始めたとき。「ピアノの道に進みたい気持ちもありましたが、中学の部活で音楽系といえど吹奏楽部しかありませんでした。私たちが代から、顧問の先生が替わり、初めてA部門で東関東大会に進んだりしたこともあってサクソフォンに熱中」なされたそうです。

吹奏楽部の一・二年生の間は、バリトンサクソスを担当、三年生でアルトの担当に。吹奏楽コンクール課題曲のソロを吹いたところ、当時指導に来てくださったいた東京佼成ウインドオーケストラのプロの先生から「プロの世界を目指してはどうか」と勧められたのだそうです。

高校生の頃は練習時間確保のため、家から一番近い学校として県立太田第一高等学校を選び、朝五時に起きてサクソスを吹き、学校が終わると急いで帰宅して夜中まで練習する毎日が続けたそうです。その後洗足学園音楽大学に進学し、常陸太田を離れますが、「中学校の吹奏楽部では、一生懸命学び、考え、実行するすばらしさを学びました。舞台上演奏したことは輝かしい思い出ですが、普段の部活での「コマコマ」や顧問の先生の言葉が今になってふっと思い出されることがある」そうです。



サクソフォンの限界を決めずにチャレンジを続ける埜さん、「音楽は常に幾重もの『変化』を私たちにもたらしてくれず。それは型にとらわれない、『喜び』『悲しみ』時には『憎しみ』まで人間の様々な感情を音楽は私たちがからひきだしてくれず。音楽そのものの核である、『クリエイティブ』とは人が生きようとする人間力そのものだと思います。」

「誰もが憧れるような素敵なホールで、例えば素晴らしいピアニストやオーケストラと共演し大きな拍手をいただくことは、感謝しながら喜びとするべきですが、音楽とともに生きていると様々なことがあります。サクソフォンを一生懸命やっていなかったら出会えなかった人の人間性にふれたときや海外の遠征などで思わぬアドバイスをいただき、何年も経った時に、自分の身体で感じられるようになった時など、音楽の熟成という途方もない旅の途中にあります。」自分の道を歩み続ける埜さん、コロナが落ち着いた折には、地元の吹奏楽団でのゲスト演奏会などを期待したいですね。

高度な技術を伴い、謙虚なひたむきさと情熱、類まれな感受性や深みを持つスーパーソリスト。ユーファム国際音楽コンクール室内楽部門を審査員全員一致の第1位で優勝。併せて審査員特別賞受賞。レオポルド・ベラン国際音楽コンクール第1位受賞。北欧国際音楽コンクール第1位受賞。釜山国際音楽祭コンチェルトコンペティションにてアーティスト特別賞受賞。ヒナステラ音楽コンクール優勝。モスクワ国際音楽コンクール第2位。ワールドミュージックコンペティション第2位。2021年10月に白寿ホールにてリサイタルを開催予定。"Golden Classical Music Awards" International Competitionで優勝し2022年3月にニューヨークのカーネギーホールに招待されデビュー・リサイタルを開催予定。

ちよつと  
ひといき



『パティスリーイチム』

「取材」大内 広明

小目町出身の於曾能隆さんは、県内や東京で経験を積んだ後、念願であった地元で昨年お店をオープンさせました。

親しみやすさや美しさをコンセプトにした旬のケーキが店内を飾ります。そのこだわりは、スポンジ生地であり、くちどけの良さを常に追求しています。「一度食べてみてほしい」と於曾能さん。自慢のショートケーキとロールケーキに特にこだわりがあります。

将来的には、地元の食材を使用した、より親しみのある商品開発に意欲的です。



店主・於曾能さん(左)



住所／小沢町1336-1  
電話／0294-32-7105  
営業時間／10:00-18:30  
定休／月曜・第3火曜日



思い出  
絵本

# 『おしいれのぼうけん』

菊池 俊哉(馬場町)



この本は、さくら保育園という保育園に通う二人の男の子の物語です。このさくら保育園には、こわいものが二つありました。一つはみずの先生が閉じ込める押入れ、もう一つはみずの先生が人形劇で演じるこわい顔のねずみばあさんです。



## 『ラミーカミキリ』

佐々木 泰弘

体長十〜十五ミリメートルの小さなカミキリムシですが、黒と緑白色のきれいな色をしています。背中側から見ると黒い二つの紋がパンダの顔やテレビキヤラクターのガチャピンの様に見えたりして、虫仲間にも人気のカミキリムシです。

五〜七月の頃、カラムシやヤブマオの葉の上で見ることができませんが、昔から茨城県に居た虫ではありません。

ある日、昼寝の時間にあきらとさとしは、あきらのポケットから出てきたミニカーを取り合って追いかけてこをしはじめます。その際、寝ている子を踏んづけたりしてしまったため、みずの先生に押入れに入れられてしまいます。押入れに入れられても二人は謝らないので、出してもらえません。しかし、入れられている間に心細くなつてきて、さとしはあきらに取り上げていたミニカーを返して謝り、あきらもポケットの中にあつたデゴイチをさとしに貸して、押入れの中で仲良く遊びはじめます。すると、押入れの模様がゆらめいて、ねずみばあさんがあらわれます。そのねずみばあさんから二人で逃げていくというのがこの本のあらすじです。

この本を読んだときは、ドキドキしながらも二人がちよつとずつですが、しつかり者になつていくような姿にどんだん引きこまれていくような感覚があつた想い出があります。何か間違ったときに、「ごめんさい」といえることの大切さを教えてくれるような一冊なので、ぜひ読んでみてください。

千葉県より南の方に分布していた種で北に分布を拡大してきました。一九九七年頃、茨城県南部に侵入してきたことが確認されています。その後県内でも分布拡大をし、常陸太田市には二〇一〇年以降入り込んだと思われる。市のカミキリムシではまだ、新参者です。山の中と言うよりは道路脇や町中の明るい空き地に生えたカラムシに見られます。写真も市街地の小さな空き地で撮影したものです。



常陸太田市木崎一町  
2021年6月5日撮影

そのような所があつたら、そつと葉の上をのぞいてみて下さい。小さなガチャピンに会えるかもしれません。

### 常陸太田の地名話

34

## 常福地町 『常陸太田市常福地町』

川松 博

「村中舊常福寺アリ、故二村名トナル」『新編常陸国誌』

「常福地の地名は、かつてこの地に常福寺というお寺が建てられていたことに由来する」『茨城県地名大辞典』

このことからわかるように、常福地という地名は、その昔、この地にあつた常福寺という寺号がその由来となつているといわれる。

『常陸国社寺由緒書』によると、この寺は、延元三年(一三三八)に了実上人によって、佐都郡に開山されたと記されている。その後廃寺となつたが、長い年月にわたりこの地は常福寺村と呼ばれていたという。

徳川斉昭公の世の天保十三年(一八四二)に寺を地に改め、常福地村となつた。この常福寺があつた



常福寺があつた集会所裏付近

場所は、現在の常福地町集会所付近といわれている。また、瓜連に創建された常福寺の寺号は、この寺号を移したものとされている。

<参考文献>  
『新編常陸国誌』『茨城県地名大辞典』  
『常陸国社寺由緒書』『常陸太田の史跡と伝説』

※お説  
第90号 職人・企業の仕事場訪問〜大人の社会科見学 坂爪指物店(春友町)と記載されていましたが、正しくは、坂爪指物店(常福地町)の誤りです。訂正してお説び申し上げます。

# 新太田点描 26

## 藤田東湖の北郡巡村

「西の西郷、東の東湖」と、両者は幕末から明治期の傑出した人物として広く世間に知られている。

東湖は文化三年（一八〇六）三月、彰考館総裁藤田幽谷の二男として水戸に生まれた。幼名は武二郎、諱を彪、字は斌卿と称した。通称は虎之介、のち藩主慶篤公から「誠之進」の名を賜っている。号は書齋名と同じ「不息齋」としたが、天保末年からは「東湖」と称するようになった。また学問に励むばかりでなく剣術の修行も怠りなく神道無念流の達人でもあった。

ところで東湖は天保二年（一八三一）一月から翌三年の五月まで短期間であるが、北郡の郡奉行を勤めていた。常陸太田市を含む旧久慈郡と那珂郡の一部はその管轄下に置かれ民政・農政を担当していたことになる。

天保二年四月、東湖は農村の作付現状とそこに暮らす人たちの生活実態を把握するために久慈・那珂両郡の村々を巡村している。この時書き記したものが『巡村日録』として水戸彰考館に存在したが、先の大戦で焼失してしまった。幸いにしてそれ以前に活字化されているので、その記述内容は知ることができる。

以下、掻い摘んで日録の内容を紹介しよう。

二十五日に従者六人と水戸田見小路の役宅を出発して那珂川を渡り瓜連（昼食）を経て部垂（大宮）に泊り、翌二十六日朝出発し下小川泊り。翌二十七日に葡萄坂を経て保内地方（現・太子町）に入り五月四日までは保内各村を巡村し小生瀬村で昼食を取り、そこから高倉村（旧・水府村）に入り庄屋宅に立ち寄り、天下野村に泊まっている。

翌五日、朝、東金砂山に登り杜宝等を見た後下山し、東染・中染・西染と通過し町田村で昼食、和久く国安く棚谷く松平く和田く芦間く東蓮寺と山田川沿いの村々を通り岩手村に宿泊している。

六日は雨の中を少し遅れて出発し千寿から高柿・竹合・箕・下利員を経て中利員で昼食、午後は上利員・赤土・下宮河内く東谷・生井澤・押沼を経て上宮河内に宿泊する。

七日朝、西金砂山に登り諸沢地割坪で昼食、その後、雷雨の中を田野・諸沢南隅と巡り西野内村へ辿り着いて宿泊している。

八日は、西野内村を出発して久慈川を舟で小

貫まで下り、一旦上陸したがまた舟で辰の口まで下り、そこからは陸路で塩原・小倉・富岡・花房と通過して上新地村で昼食、午後は川島・

下新地・中野から大里村に至り宿を取っている。

翌九日は、大里村を出発して葉谷く久米く大平く玉造く大門く増井・新宿く馬場を経て太田町に着き稗蔵を検分した後昼食を取っている。午後は稲木・天神から藤田宿・栗原・葉谷に至っている。

以上で日録の記述は終えているが、恐らくは久慈川を舟で渡り額田宿から水戸の役宅に向かったものと思われる。

またこの日録には、日にち毎に村々の作付状況や面談した村役人の人物評価など、特筆すべきことが簡潔に記されているが、紙面の都合上ここでは省略することとした。

さて、左に掲げる七言絶句の一幅は東湖の「途中偶作」と題するものである。恐らくは巡村中に即興で揮毫した自作の詩であろうが、その書体、筆法に至っては東湖の真筆と観比べると甚だ心許ない。たぶん、後世になって東湖に心酔した数寄者が書写したものであろうか。識者の見解を聞きたい。呵々。  
(吉成英文)

